

令和 6 年 6 月 2 0 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00162

研究課題名（和文）生人形の制作・流通・展示に関する研究 - 安本亀八を中心に

研究課題名（英文）Life-sized figures:Production/Distribution/Exhibition

研究代表者

本田 代志子（HONDA, YOSHIKO）

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：70713527

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000 円

研究成果の概要（和文）：生人形の見世物興行の開催記録から、人形の数量、売り上げ規模などを明らかにした。浅草公園へ移行した後も、生人形興行が主要な財源となったことや、江戸期からの興行主の影響力が長らく維持されていたことが判明した。人形師の制作活動は、見世物興行や祭礼のほか、国内外の博覧会での風俗人形の出品などへも広がりを見せた。さらに、海外の博物館での日本展示の改善のため、日本の財界人が、安本亀八に等身大人形を依頼、現地へ寄贈するなどの作品流通の事例も明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

浅草寺境内での生人形の見世物興行の興行記録から、定小屋と仮設小屋で継続的に同じ場所で開催されていたこと、浅草公園の制定後も、興行の場としての人気が続いたこと、公園の主要な収入源となったことが判明した。また、20世紀初頭、渋沢栄一などの財界人が海外の博物館を訪問し、日本を正しく伝える展示品の必要性を感じ、安本亀八らに等身大人形を依頼し、現地に寄贈したことが明らかとなった。このことは、海外博物館の日本コレクションが、訪日外国人による収集品の展示から、日本人によってその質の向上が目指されたという段階を示し、学術的に新たな事例となったといえる。

研究成果の概要（英文）：The research examines the social institutions that implemented living dolls misemono exhibitions on the Sensoji Temple grounds and later in Asakusa Park. The focus is particularly on the actual operation of the shows, including the content and scale of the shows held on the grounds of Sensoji Temple, which was the center of the exhibitions. The range of doll makers' production activities expanded to include misemono exhibitions and local festivals both domestic and international expositions. Japanese business leaders like Eiichi Shibusawa commissioned life-size dolls and donated them to overseas museums to improve Japanese collection.

研究分野：美術史

キーワード：生人形 風俗人形 安本亀八 松本喜三郎 見世物興行 博覧会

## 1．研究開始当初の背景

申請時以前は、現存作品の事例研究として、海外の博物館の所蔵作品、おもに 1910-20 年代の風俗を紹介するための作品が中心であった。本研究では、生人形師の活動の全体像、特に本来の形態である見世物興行における制作や展示に関する実態を明らかにするための基礎調査を主軸とした研究を目指した。

## 2．研究の目的

これまで見世物興行については、引札からの情報が主となっていた。ここでは生人形師および注文者、人形の数量、販売や展示の方法、作品主題の変化、受容など、作品にかかわる興行の実態、およびその後の展開の解明を目的とした。特に、幕末の見世物興行から 20 世紀初頭のマネキンに至るまでの約 80 年間、三代続いた生人形師の安本亀八を中心に、制作、流通、展示環境と受容の観点で考察を進めた。

## 3．研究の方法

見世物興行に関しては、興行の届出等、申請や認可に関する公文書、関連史料の収集、解読を行った。浅草寺の浅草寺日記などの記録集、東京都公文書館「江戸明治資料」のうち、浅草公園での見世物興行に関するものから、作品内容や人形の数量、見世物興行の小屋の大きさ、入場料、税、会期延長、流行の度合いなどの情報を一覧化し、興行の規模や変遷を推定した。

博覧会については、新聞記事、博覧会の報告書、博覧会での出品元である三越などのデパートの広報写真などから人形の制作者、数量、制作年の特定を進めた。

博物館での展示においては、作品を所蔵する博物館等の作品台帳、収蔵時の購入及び寄贈書類、公開時の新聞記事、美術館の年鑑等から、作品の来歴や受容を明らかにした。

## 4．研究成果

見世物興行に始まり、博覧会や博物館へ展開した生人形について、制作、流通、展示環境と受容の観点では、次のような成果が得られた。

### (1) 見世物興行

主に、江戸末期から明治にかけての浅草寺の見世物興行の変遷について、浅草寺日記や公園の公的記録を収集し、興行主や演目、あわせて、これまで収集した資料の引札との照合を行った。見世物興行の実施伺いや期限延長申請の書類などから、全体像を把握し、人形師と演目についての概要を得ることができた。

なかでも、浅草寺日記の解読を進める中で、新門辰五郎が、地震や大嵐で破損した浅草寺の修繕に尽力していたこと、そのことによって境内に定小屋の所有を認められ、見世物興行の実施においても権限をもっていたことや、松本喜三郎が常設の展示館を計画していたことが分かった。

浅草においては、浅草寺境内の定小屋と仮設小屋で開催されていた生人形の見世物興行が、明治に入り、浅草公園への移行のなかでも、江戸期からの興行主によって独占的に仕切られ、影響力を継承していたことが判明した。その継続性によって、浅草は安定した賑わいを生み出し、公園の目的と収入を保ちながら生人形が伝えられていく場であったことが明らかとなっ

た。

## （２）博覧会

これまでに桐生の織姫の像など絹織物の業界との結びつきが判明していたが、さらに海外での博覧会においても、養蚕を紹介する複数の事例が判明した。等身大で写実的表現で実際の養蚕の作業風景を示したものや、絹の展示の単調さを解消するための立体的表現にすぎず、人形の展示効果が高いとは言えないものもあった。1910-20年代頃の海外の博覧会に関しては新たな情報も得られたため、調査を継続している。

## （３）博物館

ドイツでの日本美術品の流通を手がけた美術商ウムラウフのカタログの内容を精査した。ハンプルク、ハイデルベルグ、フライブルクがこのカタログを参考に購入（もしくは購入検討）したことが記録されている。日本版の現物はいまだ確認できていないが、草稿によって、ハイデルベルク作品とのつながりが確認できた。

また、安本亀八三代目によるピッツバーグ（アメリカ合衆国）、グラスゴー（イギリス）の作品収蔵経緯が判明した。1910 - 20年代に、国際的に活躍した渋沢栄一など日本の財界人が、海外の博物館の日本コレクションの質を改善するために、安本亀八に等身大人形で日本の姿を示す人形の制作を依頼し、現地で寄贈していたことが明らかとなった。これは、それ以前の訪日外国人が日本で人形を購入し、故郷の博物館へ寄贈してきた経緯と異なるものである。

このことによって、当時の欧米の博物館の日本に関する展示は、多くが個人の寄贈品から成り、質の低いものも散在していた状況がわかった。また海外留学や商取引等で現地の人々と積極的かつ長期的交流を重ねる財界人が増え、正しい理解を促し、友好関係を深めるために、展示の人形を寄贈するに至ったことが判明した。その際に制作を依頼された安本亀八は、国際的な博覧会や銀座のデパートのショーウィンドーのために人形を制作し、官民に携わってきたことから、財界人らとの繋がりも深かったと考えられる。

得られた成果の国内外における位置づけについて、生人形の制作、展示に関しては、浅草での見世物興行の開催内容、状況を精査し、一興行あたりの人形数などをもとに、制作規模や経済効果を推定することができた。このことは江戸から明治初期における庶民の娯楽に関する経済的状況の解明につながるものと考えられる。海外への流通や展示については、所蔵博物館のコレクションの成り立ちや作品の新たな情報を明らかにすることができた。このことは、作品の理解や、今後の継承への一助になると思われる。

今後の展望として、見世物興行については、調査対象を大阪や各地域に広げ、より総体的な実態の解明を進めたい。また、海外の博物館での現存作品、史料も少しずつではあるが、新たに判明しているため、それらの事例の調査を行うことで、生人形の制作や流通についての新たな視点が得られると考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 本田代志子	4. 巻 39
2. 論文標題 浅草における生人形の見世物興行	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 デアルテ	6. 最初と最後の頁 21-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田代志子	4. 巻 33
2. 論文標題 生人形および関連作品の流通 欧米の日本美術コレクション	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人形玩具研究 - かたち・あそび -	6. 最初と最後の頁 40～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田代志子	4. 巻 32
2. 論文標題 安本亀八の風俗人形 ー欧米博物館への作品寄贈と財界人ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藝術研究	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 本田代志子
2. 発表標題 欧米博物館における等身大人形の展示 - 民間の交流による安本亀八作品の寄贈 -
3. 学会等名 九州藝術学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------